

目次

1. 中間答申のふりかえり
2. 「DX推進アクションプラン」について
3. 具体的な取組み状況報告
意見交換
4. 今後のスケジュール

「令和8年度第1回 行財政改革審議会」

1. 「DX推進に向けた中間答申」のふり返し

1 市民や職員にわかりやすい方針・目標の設定

市では、現在、多様な情報基盤やデジタル技術を活用し、市のDXの活用を推進している。この取組みを加速させるために、「行かない市役所」「書かない窓口」など、市民・職員から共感を得られる具体的かつ効果をイメージできる方針を掲げること。

2 市民サービスの充実にに向けた実のある取組みの展開

市民にとって行政のDXとは、「便利に、安心できる毎日」を届けるための手段に過ぎない。その点を踏まえ、市民が効果を実感できる取組みを展開し、市民サービスの充実を図ること。

行政手続きのオンライン化や窓口受付予約制の導入などにより手続きを簡素化し、市民の時間の節約につながるような取組みを展開すること。

3 デジタルディバイド・セキュリティへの配慮

デジタル化により「便利さ」を届けようとする一方で、デジタル化やセキュリティに不安を感じる方々への支援が不可欠であり、「デジタルディバイド(情報格差)に配慮する」という理念を、具体的な手段を通じてどのように実行するかが、重要である。

デジタル化やセキュリティに不安を感じる方や外国籍市民にも使いやすい手続きの整備、窓口で丁寧な対応に努めるよう周知・徹底するなど、「誰一人取り残さないDX」を念頭に置いて進めること。

「令和8年度第1回 行財政改革審議会」

1.「DX推進に向けた中間答申」のふり返し

4 職員のデジタルスキルの向上

市民サービス向上には、職員のスキルアップが不可欠である。DXを技術的な変化だけではなく、職員の技術的能力、発想力、課題発見力、問題解決力の向上を目指す人材育成の機会と捉えること。

これを機にデジタルスキルを課題解決につなげることのできる”DX人材”の育成に向けた研修プログラムの設定や、生成AIのような新しい技術を実際の業務に活用していくための導入支援などを行うことで、市全体のサービス品質向上につなげること。

5 業務の効率化による成果の市民サービスへの再配分

業務の効率化に加え、効率化により得られた「余裕」は市民サービスの充実へ還元すること。“時間を生み出す自動化”や“正確さをもたらすデジタル技術”により職員の負担を軽減し、さらに市民に寄り添える環境を整えること。

「令和8年度第1回 行財政改革審議会」

2.「川西市DX推進アクションプラン」

目標と主要なテーマ

- ・本プランでは、戦略に掲げる目標の達成のため、次の4つを主要なテーマとして取組みます。

市民サービスの向上及び業務の効率化に向けたDXの推進	
行政手続きや市民相談の オンライン化による “行かない市役所”	窓口のスマート化による “書かない・待たない窓口”
多様な市民に寄り添い 誰もが安心して使える “人にやさしいデジタル化”	職員の業務効率を デジタル技術で向上させる “働き方のバージョンアップ”

「令和8年度第1回 行財政改革審議会」

2.「川西市DX推進アクションプラン」

中間答申との関連

- 1 市民や職員にわかりやすい方針・目標の設定
- 2 市民サービスの充実に向けた実のある取組みの展開

具体的な取組み①

■…R10年度時点の達成指標

- ・各テーマにおける具体的な取組みと目標は次のとおりです。

行かない市役所

- 新たにオンライン化した市民向け手続き（新規） 150件
- オンラインによる申請件数（R6年度:9.8万件）12.7万件

- ・オンライン申請ツールを活用して手続きのオンライン化を促進
- ・利用者が必要な手続きに簡単にアクセスできるようナビゲーションを整備

書かない・待たない窓口

- 書かない窓口に対応した手続き数（新規） 100件
- 来庁者の平均的な手続き所要時間（取組前比較） 20%減

- ・窓口改革の検討チームを立ち上げ、デジタル技術を活用したスマートな窓口を実現する
- ・業務のBPRを通じて、窓口の状況に応じた個別ブースの設置や予約システムの導入など多様な選択肢を検討する

「令和8年度第1回 行財政改革審議会」

2.「川西市DX推進アクションプラン」

中間答申との関連

- 3 デジタルディバイド・セキュリティへの配慮
- 4 職員のデジタルスキルの向上
- 5 業務の効率化による成果の市民サービスへの再配分

具体的な取組み②

■・・・R10年度時点の達成指標

- ・各テーマにおける具体的な取組みと目標は次のとおりです。

人にやさしいデジタル化

■デジタル活用をフォローアップした市民の数 増加
■職員の情報セキュリティ研修受講率 (R6年度:98%) 100%

- ・デジタル技術に不慣れな市民へのフォローアップ
- ・市民が安心してデジタルツールを利用するための情報セキュリティの確保

働き方のバージョンアップ

■業務に生成AIなどのDXツールを活用している職員の割合
※月1回以上生成AIを利用する職員 (R7年12月:24%) 90%
■DXツールの活用で削減された業務時間 (新規) 年6,000時間

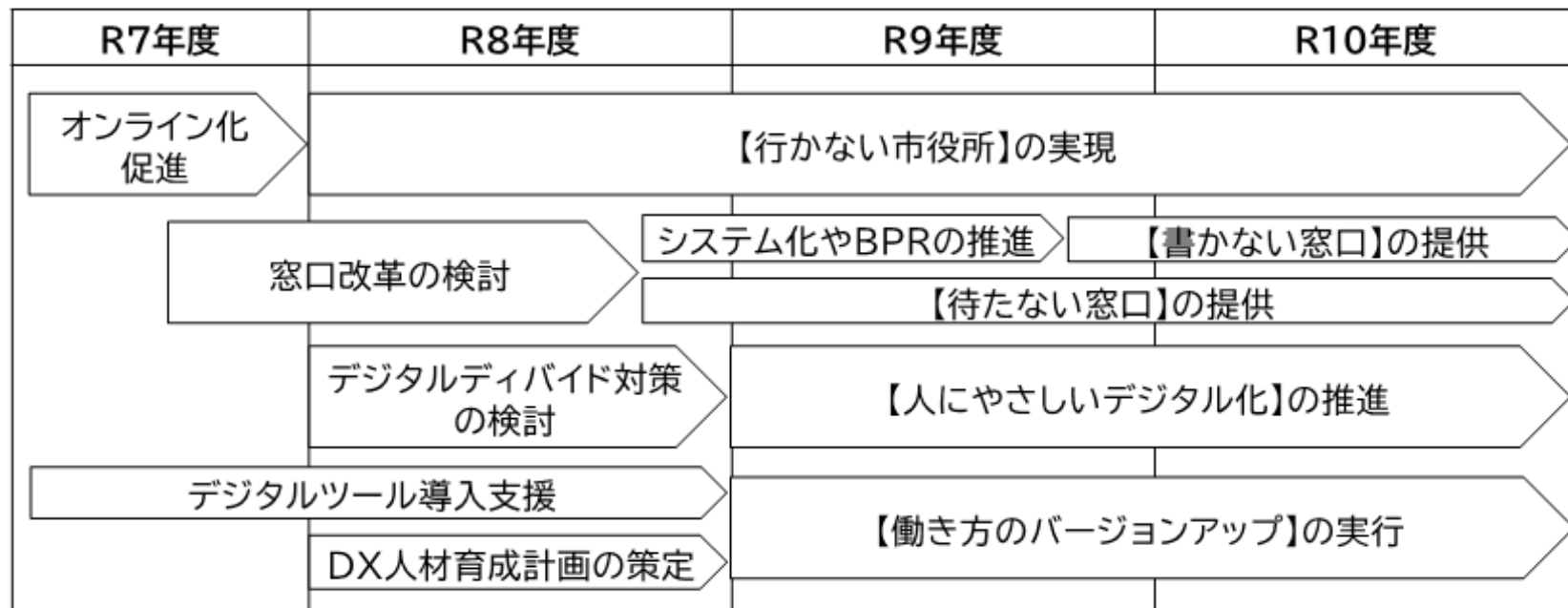
- ・生成AIや自動化技術など最新の技術を積極的に取り入れ業務効率を向上
- ・デジタル人材を育成し、推進の土壌となるDXマインドを持つ職員を増やす
- ・デジタルで効率化した結果生まれる余力を市民サービスの充実へ還元

「令和8年度第1回 行財政改革審議会」

2.「川西市DX推進アクションプラン」

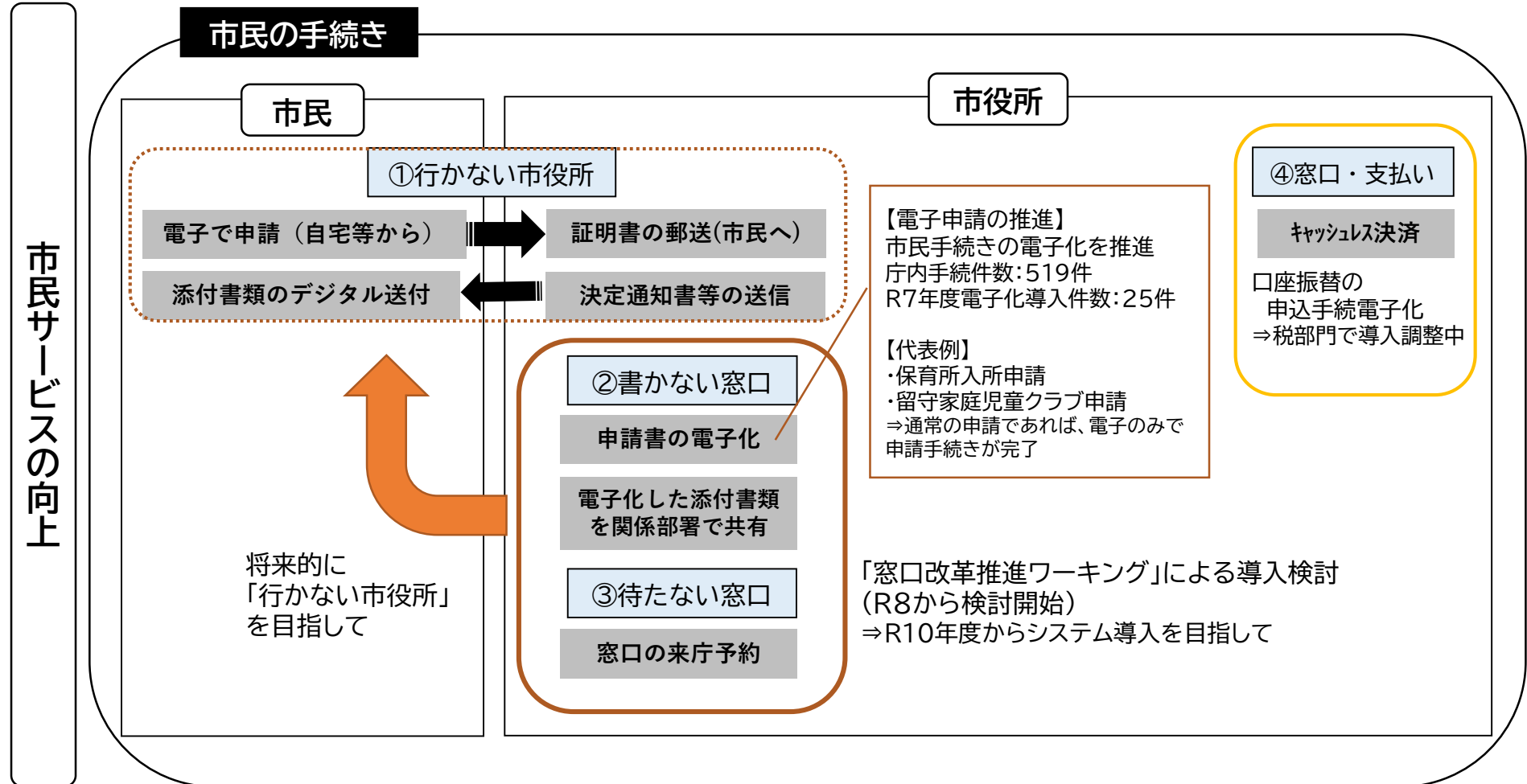
実行スケジュール

- 本プランの取組みは、以下のスケジュールにより実行します。ただし、取組みにより早期に実現可能なものは、順次前倒しを検討します。



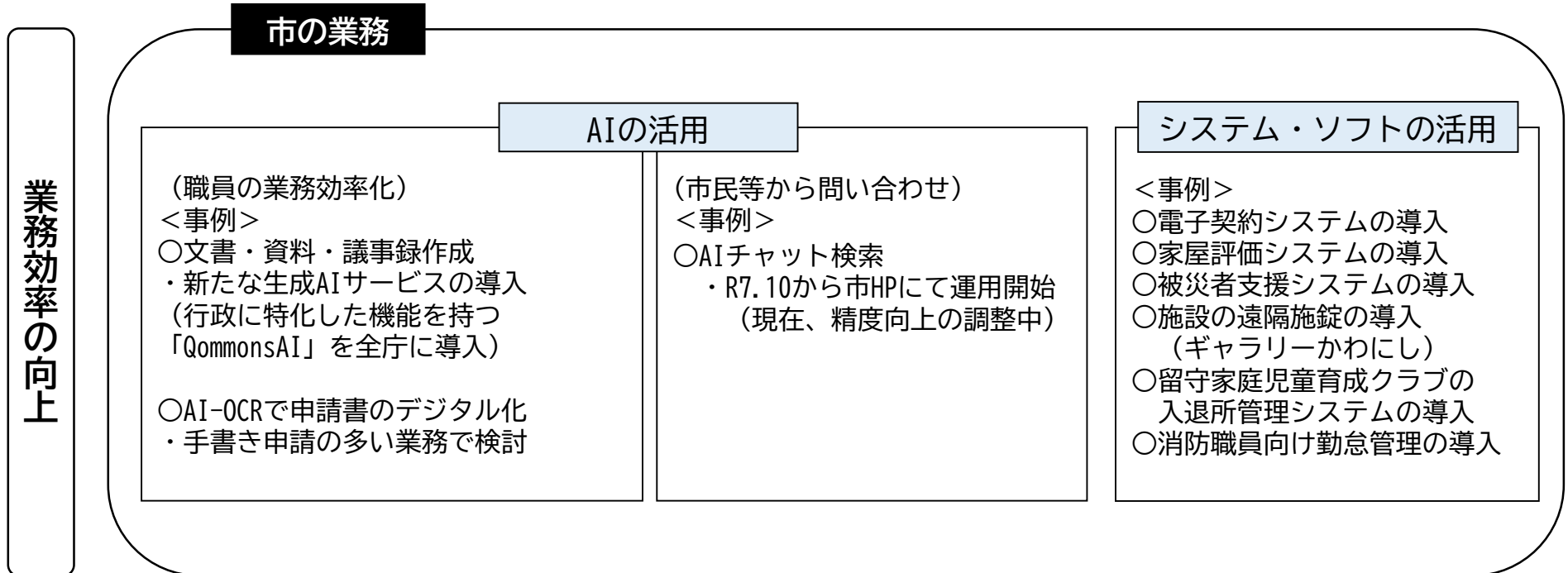
「令和8年度第1回 行財政改革審議会」

3.DX推進に向けた具体的な検討項目(市民サービスの向上)



「令和8年度第1回 行財政改革審議会」

3.DX推進に向けた具体的な検討項目(全体図_業務効率の向上)



「令和8年度第1回 行財政改革審議会」

意見交換

- ・DX推進アクションプランについて
- ・中間答申や市の取組みに追加した方がよい視点・項目について
 - ※新たな視点や不足している視点
 - 【新しい視点の例(事務局想定案)】
 - ⇒BPRの視点
 - ⇒バックヤード改革の視点
 - ⇒マイナンバー活用の視点
 - ⇒オープンデータの分析、施策反映の視点
 - 【不足している点】
 - ⇒デジタルディバイドに対応する具体的な取組み
- ・DX推進にかかる全体理念の具体化について
 - ⇒令和10年度以降も継続して持つべき考え方

「令和8年度第1回 行財政改革審議会」

4. 今後のスケジュール

【第1回審議会】

○令和8年7月31日(金):オンライン開催

【第2回審議会(予定)】

○令和8年10月下旬:オンライン開催(予定)

【第3回審議会(予定)】

○令和8年12月中旬～下旬:開催方法未定

【最終答申について】

案①:第3回審議会時に「最終答申」をする

案②:内容調整期間を設け、1月以降に書面等で「最終答申」をする

※審議会での審議内容や状況を考慮し調整をさせていただきます。